

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所

第1 法人の概要

1 代表者

理事長 西山良平

2 所在地

京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265 番地の 1

3 電話番号

075-415-0521

4 ホームページアドレス

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

5 設立年月日

昭和 51 年 10 月 26 日

6 基本財産

932,366 千円（うち本市出えん額 932,366 千円、出えん率 100.0%）

7 事業目的

京都市内の埋蔵文化財をはじめ、史跡、名勝等の文化財の調査、研究、保護及びその調査成果の公開、活用を行うとともに、文化財及び関連する施設等の管理を行うことにより、学術・文化の振興や地域社会の健全な発展等に寄与すること。

8 業務内容

- (1) 埋蔵文化財及び史跡、名勝等の文化財の調査、研究及び保護に関する事業
- (2) 埋蔵文化財及び史跡、名勝等の文化財の活用及び保護意識の普及啓発に関する事業
- (3) 文化財及び文化財に関わる京都市から指定管理者の指定等を受けた施設の管理運営
- (4) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

9 所管部局

文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（TEL075-222-3130）

10 役員名等

(1) 理事長

西山良平

(2) 専務理事

荒木裕一（文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課埋蔵文化財研究所改革担当参事）

(3) 理事

五十川伸矢、井上満郎、岩崎奈緒子、小椋純一、金谷宗子、鋤柄俊夫、伊達仁美、玉置泰紀、富島義幸、松本邦子、山村亜希

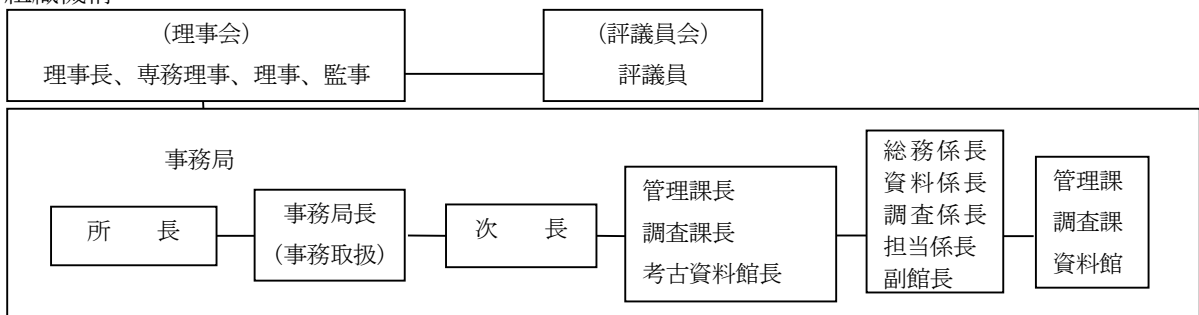
(4) 監事

柴田陽一郎

11 職員数

常勤職員数 28 名、非常勤職員数 1 名

12 組織機構



第2 目標及び実績

1 業務面

(1) 目標及び実績

目標 「埋蔵文化財の普及啓発の推進」	
令和5年度の目標	京都市考古資料館等において、新たに市指定文化財に指定された遺物や大河ドラマに関連する京都の遺跡、その他市民等の関心の深い考古資料をテーマとした特別展示、大学の特色等を生かした合同企画展、発掘調査等の成果をいち早く展示する速報展等の多彩な展示を行う他、発掘調査成果や文化財に関連する市民向けの講座などを開催し、これらの取組を通じて市民等へ広く京都市埋蔵文化財研究所の取組や発掘調査成果の発信、埋蔵文化財の普及啓発を推進する。
令和5年度 の取組結果 (※)	
令和6年度の目標	京都市考古資料館等において、新たに市指定文化財に指定された遺物や大河ドラマに関連する京都の遺跡、その他市民等の関心の深い考古資料をテーマとした特別展示、大学の特色等を生かした合同企画展、発掘調査等の成果をいち早く展示する速報展等の多彩な展示を行う他、発掘調査成果や文化財に関連する市民向けの講座などを開催し、これらの取組を通じて市民等へ広く京都市埋蔵文化財研究所の取組や発掘調査成果の発信、埋蔵文化財の普及啓発を推進する。 特別展示で展示している遺物の特徴や見どころを一点ずつSNS(X(旧Twitter))で紹介し、特別展示により興味を持ってもらい集客につなげる取組を前年度に引き続き試行する。

指標	展示、講演会等の実施回数						(単位：回)	
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
			22	25	33	30		33

(2) 事業実績（令和4年度）

- ア 理事会及び評議員会の開催
- イ 発掘調査、考古学的調査、調査支援及び測量・保存処理・写真撮影等の実施
- ウ 京都市受託事業
 - (ア) 出土遺物の保管管理及び出土遺物の整理事業
 - (イ) 埋蔵文化財出土遺物指定準備事業
 - (ウ) 埋蔵文化財普及啓発事業
 - (エ) 史跡名勝等管理
 - (オ) 京都文化遺産保存活用事業
 - (カ) 京都市考古資料館指定管理
 - (キ) 京都市京北文化遺産センター整備及び管理運営
- エ 埋蔵文化財調査報告書の刊行
- オ 講演会・イベントの開催
 - (ア) 京の歴史文化探検・体験事業（下京区、中京区で実施）

- (イ) 文化財講演会「幻の京都新城を解明する - 秀吉最後の城-」
- カ 記者発表、現地説明会の開催
- キ 「リーフレット京都」(No.399～No.410)の発行
- ク 全国埋蔵文化財法人連絡協議会への参加
- ケ その他研究会等への派遣
- コ 講師等の派遣
- サ 出前授業等
- シ インターンシップの受入れ
- ス インターネット(ホームページ・Facebook・Twitter)による情報発信・開示
- セ 職員研修の推進等
- ソ 京都市考古資料館事業
 - (ア) 特別展示の実施
 - a 「鎌倉時代の京都」
(令和4年2月11日～6月19日)
 - b 「考古資料とマンガで見る呪術-魔界都市京都-展」
(令和4年7月14日～11月20日)
 - c 「THE 金箔瓦」
(令和5年2月11日～6月18日)
 - (イ) 合同企画展の実施
京都大学大学院工学研究科景観設計学研究室との合同企画展
「路上カオス-歴史に見る可能性-」
(令和4年12月14日～令和5年1月22日)
 - (ウ) 速報展・企画陳列の実施
 - (エ) 外部施設での展示の実施
 - a 市役所分庁舎での考古資料展示
 - b 上京区総合庁舎での考古資料展示
 - c 京都アスニーでの考古資料展示
 - d 山科区役所「アートロードなぎつじ」での考古資料展示
 - (オ) 小・中学生発掘体験
 - (カ) 夏期教室
 - (キ) 文化財講座の開催
 - (ク) 情報コーナーにおける普及啓発
 - (ケ) 考古資料の貸出し
 - (コ) 博物館学芸員課程実習生の受入れ
 - (サ) 生き方探求・チャレンジ体験の受入れ
 - (シ) 教育機関の学外授業等の受入れ
 - (ス) 関係機関等の受入れ
 - (セ) 取材対応
 - (ソ) 他の関係機関との連携事業
 - (タ) 有償事業の実施
 - (チ) ボランティア研修事業
 - (ツ) 考古資料館施設の改修等

2 財務面

(1) 目標及び実績

目標 「発掘調査事業収入の確保」	
令和5年度の目標	総収益の7割を占める発掘調査事業について、公共事業の確実な受託はもとより、民間事業についても、これまでの発掘実績に基づく価格競争力のある見積提案及び発掘調査等のメディアへの掲載を通して、研究所の知名度や調査実績を広くアピールすることで調査受託に繋げ、事業収益の確保を図る。併せて管理経費の一層の削減に努め、京都市からの長期借入金の確実な返済及び当期経常益の計上を目指す。
令和5年度 の取組結果 (※)	
令和6年度の目標	総収益の7割を占める発掘調査事業について、公共事業の確実な受託はもとより、民間事業についても、これまでの発掘実績に基づく価格競争力のある見積提案及び発掘調査等のメディアへの掲載を通して、研究所の知名度や調査実績を広くアピールすることで調査受託に繋げる。また、発掘調査事業ごとに予め定めた計画数量に対する執行数量をしっかりと把握し、事業収益の確保を図る。併せて管理経費の一層の削減に努め、京都市からの長期借入金の確実な返済及び当期経常益の計上を目指す。

指標	発掘調査事業収入						(単位：千円)	
目標と実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
			427,527	350,000	379,979	410,000		460,000

主要財務数値		(単位：千円)							
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		
	予算	実績	予算	実績	予算	実績 (※)	予算	実績 (※)	
経常収益	533,445	620,287	497,162	556,313	564,508		630,323		
経常費用	533,445	593,377	497,162	578,052	564,508		630,323		
当期経常増減額	0	26,910	0	△21,739	0		0		
当期正味財産増減額	0	26,910	0	14,899	0		0		
資産合計	-	1,410,446	-	1,334,726	-		-		
負債合計	-	841,240	-	750,621	-		-		
正味財産	-	569,206	-	584,105	-		-		
うち累積損益額	-	△363,160	-	△348,261	-		-		

(参考) 京都市からの補助金等

(単位:千円)

		R3 決算	R4 決算	R5 決算 (※)	R6 予算
委託料	京都市考古資料館管理運営委託 〔指定管理 (公募)〕	26,379	26,379		26,379
	埋蔵文化財の調査委託	293,844	100,686		35,500
	出土遺物文化財指定準備	26,540	8,804		8,381
	遺物保管委託	70,000	70,000		70,000
	出土遺物整理	10,200	13,206		11,324
	埋蔵文化財普及啓発委託	850	850		850
	史跡名勝等の管理委託	44,004	40,375		41,476
	文化遺産保存活用事業	2,000	2,000		-
	歴史資料館運営補助	3,400	3,400		-
	史跡名勝整備等事業	-	3,850		-
	京北文化遺産センター整備・運 営費	-	22,894		4,600
	史跡公有化及び仮整備事業他	6,065	-		17,000
	出土文化財収蔵・公開促進事業	18,000	-		-
貸付金	長期貸付金 (累計残高)	598,000	585,000		559,000

3 組織面

(1) 目標及び実績

目標 「調査員の資質能力の向上」	
令和5年度 の目標	調査員の世代交代が進む中で、研究所がこれまで培ってきた高い調査技術の若手職員への継承及び育成を図り、市内における埋蔵文化財発掘調査業務の中心的役割を担う。
令和5年度 の取組結果 (※)	
令和6年度 の目標	調査員の世代交代が進む中で、研究所がこれまで培ってきた高い調査技術の若手職員への継承及び育成を図り、市内における埋蔵文化財発掘調査業務の中心的役割を担う。また、発掘調査現場の複数職員の配置及び他の発掘調査現場の遺構や土層等の観察や検討などを行うことで経験値を高める。

指標	埋蔵文化財専門職員（Ⅱ種）の割合						（単位：％）	
目標と実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績（※）	目標	実績（※）
		42	45	45	50		50	

第3 令和5年度の経営評価（令和4年度の経営状況に対する評価）

1 所管局による評価

財務面	<p>発掘調査事業収入が前年から48百万円と減収したにもかかわらず、効率的な業務執行に努め、単年度収支の赤字幅を22百万円に抑えたことは評価できる。</p> <p>また、平成26年度以降は、平成22年度から実施してきた本市からの長期貸付、短期貸付とも実行せずに運営しており、経営努力には一定の成果が見える。</p> <p>令和4年度は、本市公共事業が大幅に減少したことにより、発掘調査事業収入全体で前年から48百万円減収したものの、国営公共事業や民間事業については前年度を大きく上回る実績を確保できている。発掘調査事業量は景気等に左右され、公共事業も一部省庁の大規模事業を除き、中長期的に見れば減少の見込みであることから、脆弱な出土文化財に対する保存処理技術などの当財団の特徴を活かした受託収入等の拡大に計画的に取り組むとともに、引き続き、民間事業も積極的に獲得し、運営の更なる安定化に努める必要がある。</p> <p>また、引き続き、事務事業の効率化や一般管理運営経費の抑制の継続、運営体制の効率化などの取組を進め、経営健全計画の着実な推進に努める必要がある。</p>
事業面	<p>本市において、発掘調査を行うためには、地域の歴史や各時代の土層、遺物に関する専門的な知識と経験に基づく高水準の調査技術が必要である。</p> <p>当財団は、設立以来、それらを蓄積、維持、継承することで、公共事業をはじめとする本市内における多くの発掘調査を受託し、適切に実施している。</p> <p>事業の特殊性から目標とする事業量をこなしていくためには、当財団の最大の収益源である発掘調査事業収益を安定的に確保するとともに、適切な調査員数を維持していく必要がある。しかしながら、近年、熟練で高度な技能を有する調査員の多くが定年退職し、急激に調査員の構成が変化したことで、技術の継承が十分にできていないことが重要な課題となっており、技術研修の機会を増やす必要がある。</p> <p>再雇用期間が満了した嘱託職員の後任不補充等により、平成30年度に立てた削減目標を前倒しで達成できた。今後も、人件費の削減に努めつつも、安定的かつ高水準の調査技術を維持できるよう、計画的な世代交代を円滑に進めていくとともに、増減する調査業に柔軟に対応できるよう、組織・人員体制のあり方について検討していく必要がある。</p>

2 外郭団体総合調整会議による評価

<p>前年度の実績や目標を上回る、展示や講演会等の実施、新たに元京北第二小学校の施設を活用した京北文化遺産センターの整備・管理業務を公募により受託するなど、埋蔵文化財の啓発普及の推進に向けて、重要な取組を着実に進めており評価できる。</p> <p>一方、令和4年度は民間事業等からの受託を伸ばす取組を進められたが、外注経費等が増加し、決算は22百万の赤字となった。</p> <p>民間の調査団体も多く参入しているため厳しい状況ではあるが、豊富な調査成果や、地域に適した発掘調査技術をもとに、公共事業・民間事業を積極的に獲得することで、長期貸付金を確実に返済し、経営の安定化と自律化に向けた取組を進めていただきたい。</p>
